Enterprise Architect Pro Cloud Server setup guide

by Sparx Systems Japan

Pro クラウドサーバの利用のための手順書

Copyright (c) 2017-2024 Sparx Systems Japan

目次

1 はじめに 3
2 Pro クラウドサーバと WebEA 3
3 事前準備 5
4 インストール 6
4.1 XAMPP 6
4.2 Pro クラウドサーバ 10
4.3 WebEA ファイルの移動 10
5 初期設定 12
5.1 プロジェクトの準備 12
5.2 Pro クラウドサーバの設定 14
5.3 WebEA の設定 18
6 利用 19
6.1 Enterprise Architect から Pro クラウドサーバに接続する 19
6.2 Web ブラウザから WebEA に接続する 20
6.3 Enterprise Architect での変更を Web ブラウザで確認する 22
7 その他の便利な使い方 23
7.1 パッケージリポジトリ 23
8 トラブルシューティング 25

Copyright (c) 2017-2025 Sparx Systems Japan

1　はじめに

このドキュメントでは、Pro クラウドサーバの機能を試してみたい方や、基本的な構成・設定で利用を開始したい方向けに、(暫定的な)サーバを構築し利用できるようにするまでの手順を示したドキュメントです。このドキュメントが対象とする Pro クラウドサーバは、無料版・有料版どちらにも対応します。(無料版・有料版のインストーラは同一で、有料ライセンスをサーバに設定すると有料版として動作します。)

このドキュメントの内容は、とりあえず Pro クラウドサーバの機能や動作を試し、効果を見たいという状況を想定しています。実際の運用の際には、例えばセキュリティ面で問題がないようにするなど、考慮すべき点が少なからずあります。このドキュメントでは、そうした実際の運用まで考慮していませんので、ご注意ください。

なお、スパークスシステムズ ジャパンの製品そのものではない範囲につきましては、標準サポートの対象外となります。例えば、Apache の構築の仕方や XMAPP 以外のインストーラを使う場合などは標準サポートでは対応できませんのでご注意ください。

このドキュメントに記載していない、詳細な設定項目などはヘルプに情報があります。このドキュメントにない内容については、ヘルプの内容もご覧ください。
https://www.sparxsystems.jp/help/17.0/connect_to_the_cloud.html

2　ProクラウドサーバとWebEA

このドキュメントでは、「Pro クラウドサーバ」と「WebEA」の 2 つの設定について説明します。Pro クラウドサーバは、サーバ本体と WebEA のほかいくつかのコンポーネントで構成されます。つまり、WebEA は Pro クラウドサーバを構成する一つの部品です。

「Pro クラウドサーバ」は、Enterprise Architect がインストールされているマシンとは別のマシンにプロジェクトを配置し、複数人で共有するためのサーバです。名前の通り、Amazon Web Service や Microsoft Azure のようなクラウド環境に配置することもできますが、社内のネットワーク内で利用することもできます。また、フローティングライセンスを利用する場合の、ライセンスサーバとしても動作します。

プロジェクトファイルをネットワークドライブに配置するなどの方法で、Pro クラウドサーバを利用しなくてもプロジェクトの共有は可能です。しかし、Pro クラウドサーバを利用するとプロジェクトとの通信に HTTP や HTTPS のプロトコルを利用できるなど、いくつかのメリットがあります。Pro クラウ

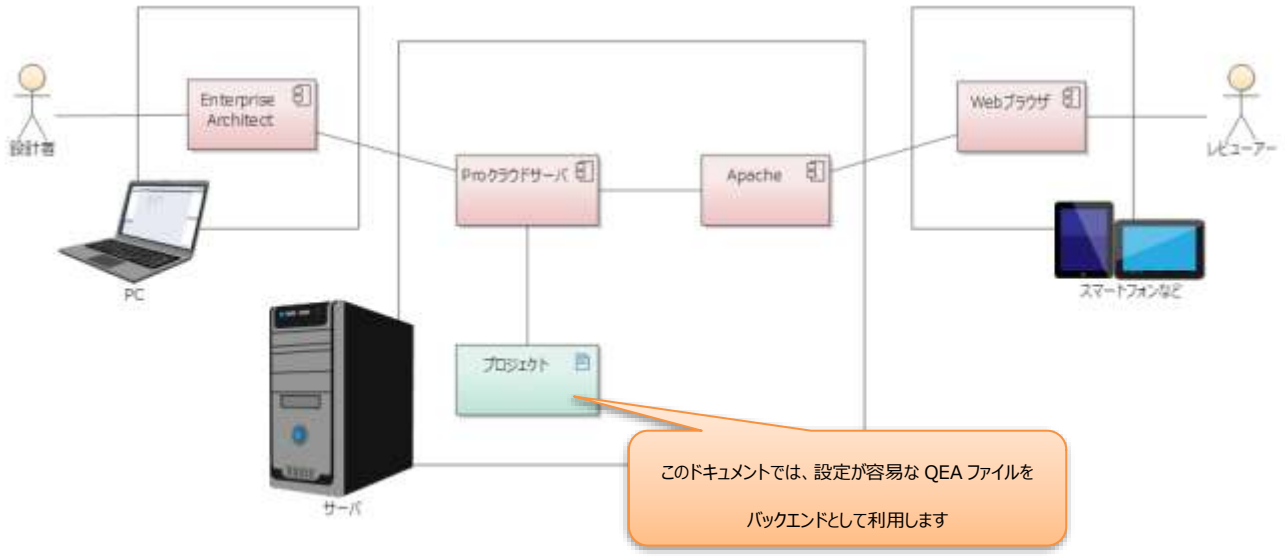
Copyright (c) 2017-2025 Sparx Systems Japan

ドサーバの基本機能は無料で利用できます。

プロジェクトの共有に Pro クラウドサーバを利用する場合のメリットは以下の通りです。

- http や https で通信できるので、ファイヤウォールの設定でファイル共有ができない場合などでもプロジェクトを共有できる
- 通信内容を圧縮して送受信するので、Pro クラウドサーバ以外の方法でプロジェクトを共有する場合と比較して、動作速度が改善する場合がある
  (Pro クラウドサーバを利用する以外に、例えば MySQL や SQLServer などの DBMS にプロジェクト情報を格納し、それぞれの設計者の Enterprise Architect から接続することも可能です。Pro クラウドサーバを利用する場合には、通信する情報を圧縮し、http/https で通信可能な形式に変換します。そのため、直接接続と比較すると、マシンの性能や通信速度によっては、特に単純で小さなデータの送受信の場合には遅くなるかもしれません。一方で、DBMS への直接接続は、企業の場合には通信に利用するポートがファイアウォールなで制限され、通信できない場合もあります。)

「WebEA」は、Pro クラウドサーバで管理されているプロジェクトを Edge や Chrome などの Web ブラウザで参照するための仕組みです。WebEA がない場合には、プロジェクトの参照には Enterprise Architect が必要となりますが、WebEA があれば Web ブラウザだけでプロジェクトの内容(の一部)の参照ができます。そのため、スマートフォンやタブレットなど、Enterprise Architect が動作しない環境からプロジェクトの参照もできます。以下の図が、利用の構成例です。



ただし、WebEA の利用には有料のライセンスが必要です。これ以降の説明において、有料のライセンスが必要な WebEA に関する設定には **WebEA** マークで明示します。無料の範囲で設定・利用する場合にはこのマークの設定項目は無視してください。

Pro クラウドサーバ単独でも利用できますが、WebEA と組み合わせて利用することでさらに効果を発

Copyright (c) 2017-2025 Sparx Systems Japan

揮します。このドキュメントでは、この 2 つの設定と利用までの手順を説明します。

なお、有料のライセンスを適用すると利用できる追加機能は WebEA 以外にもいくつかありますが、このドキュメントの範囲では利用しません。このドキュメントに記載のない追加機能の内容はヘルプをご覧ください。
https://www.sparxsystems.jp/help/17.0/pro_cloud_server.html

3 事前準備

このドキュメントの内容に従って Pro クラウドサーバを構築し、その機能を一通り活用するためには、以下の事前準備・前提条件を満たしてください。

- ✓ Pro クラウドサーバをインストールする Windows あるいは Windows Server
  - ➢ このドキュメントでは、Windows 11 を利用して説明します。
  - ➢ インストールには管理者権限が必要です。
- ✓ Enterprise Architect
  - ➢ バージョン 17.0 以降
    - ✧ コーポレート版以上のエディションが必要です。
    - ✧ ただし、Pro クラウドサーバのデータを QEA ファイルに保存する方式で利用する場合(このドキュメントの説明内容)には、エディションの制限はありません。
  - ➢ 今回はサーバと同じマシンにインストールします。
- ✓ Pro クラウドサーバ
  - ➢ インストーラは下記 URL からダウンロードできます。Enterprise Architect のサポート ID およびパスワードが必要です。
    https://www.sparxsystems.jp/registered/reg_ea_down.htm
- ✓ Web ブラウザ
  - ➢ HTML5, CSS3 に対応している Web ブラウザが必要です。
  - ➢ JavaScript が動作するように設定してください。
- ✓ XAMPP のインストーラ WebEA
  - ➢ Apache サーバおよび PHP のために利用します。
  - ➢ 以下の URL よりダウンロードすることができます。
    https://www.apachefriends.org/jp/index.html
  - ➢ このドキュメントの作成時点では XAMPP の更新が停止しているようで、ダウンロード可能なインストーラに含まれる構成ファイルにはセキュリティ上の脆弱性があります。内部環境における動作確認以外の用途での利用には推奨しません。

なお、このドキュメントでは、すべてのサーバ・ツールなどを 1 台のマシンにインストールする前提

Copyright (c) 2017-2025 Sparx Systems Japan

としています。これは、ネットワークの設定等に起因する問題を避け、動作させることを優先していることが理由です。

Pro クラウドサーバと、Enterprise Architect や Web ブラウザを同じマシンで利用することは実際には少ないと思います。このような場合、ファイアウォールの設定やサーバの名前解決の問題などでサーバと通信ができないなどの問題が起こりえます。これらの内容およびその解決方法は、このドキュメントおよび弊社サポート窓口の範囲外となります。
(サーバの構築、特に Windows Server 上への Pro クラウドサーバの構築にはサーバ OS や通信・ネットワークに関する知識が必要です。)

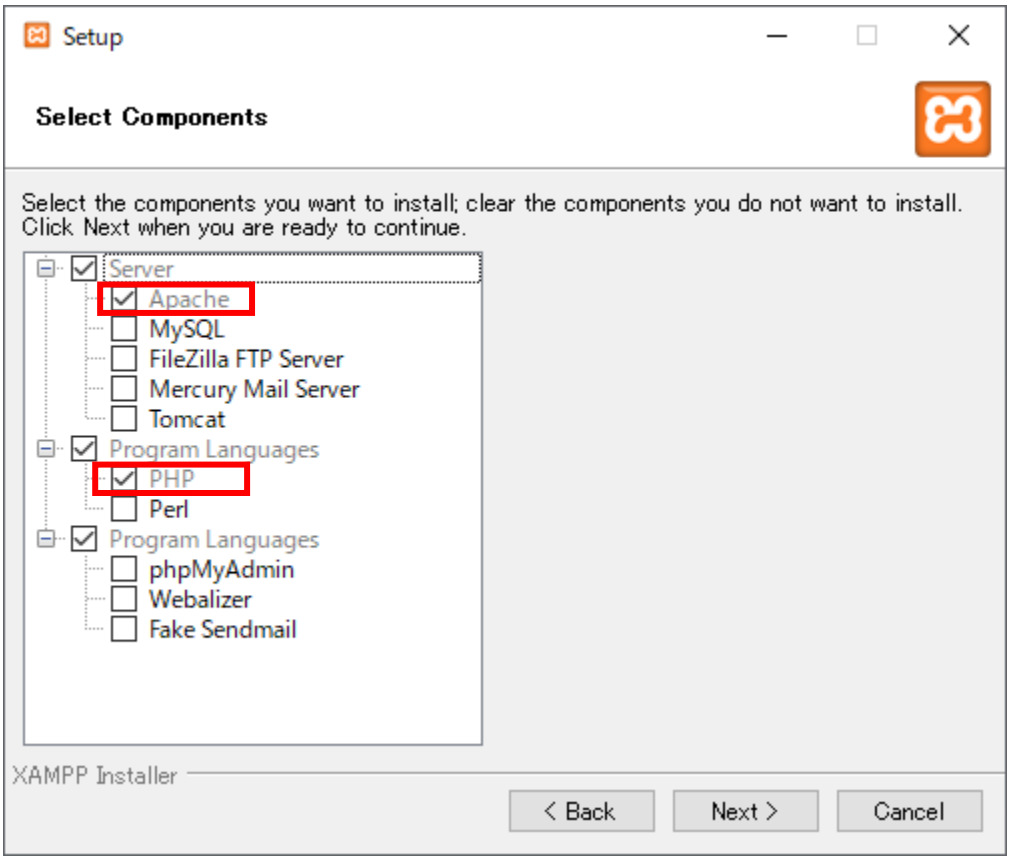
4 インストール

まず、サーバとなるマシンに必要なソフトウェアをインストールします。

4.1 XAMPP WebEA

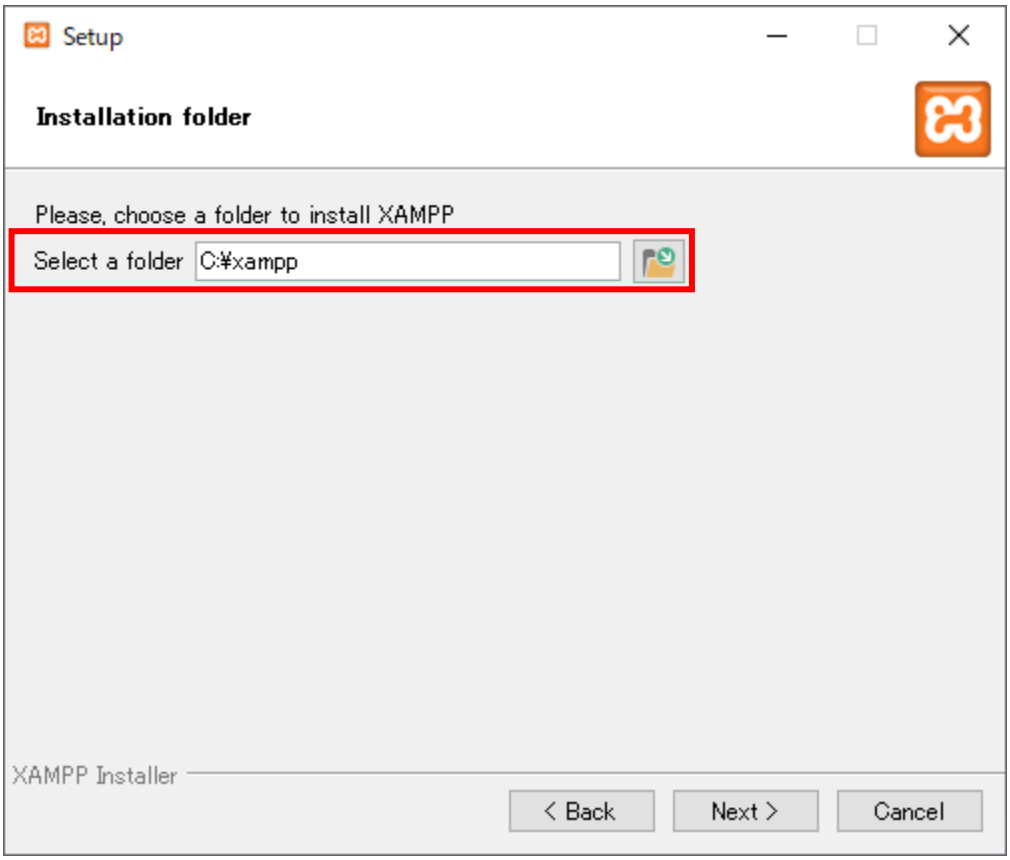
最初に、XAMPP を利用して Apache および PHP モジュールをインストールします。ダウンロードしたインストーラを実行してください。環境によっていくつかメッセージが表示されますので、内容を確認してください。処理を進めると、次の Setup 画面が表示されますので、画面にありますように、Apache および PHP のみをインストールするように選択します。

Copyright (c) 2017-2025 Sparx Systems Japan

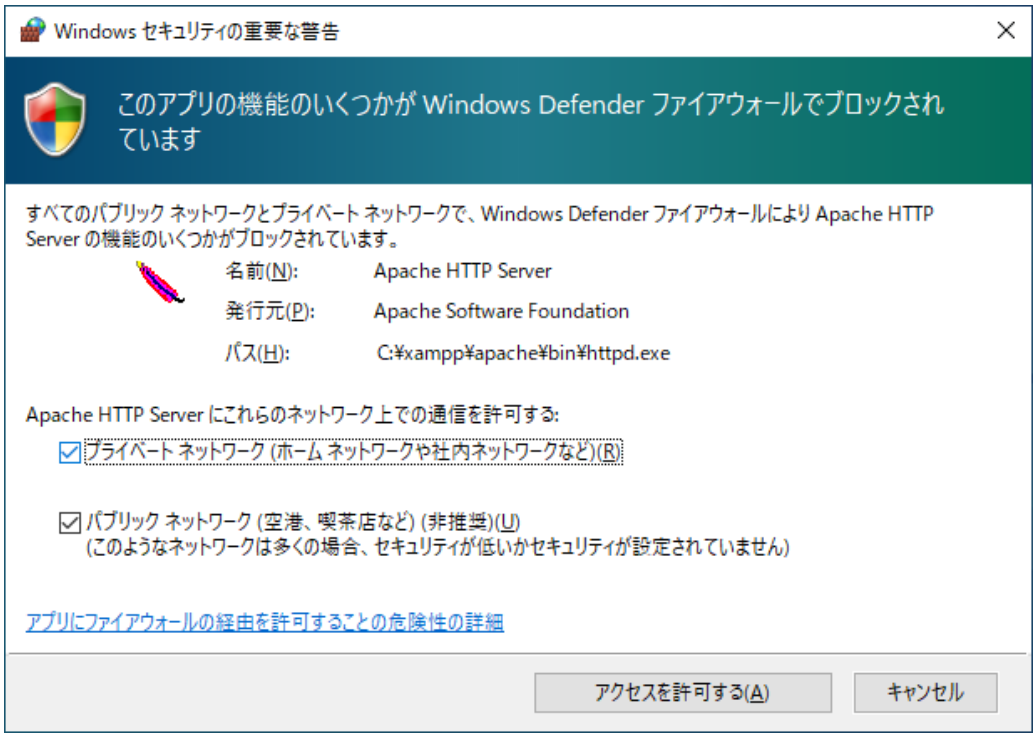


Next ボタンを押すとインストールするフォルダの指定画面になりますので、既定の内容(C:¥xampp)は変更しないでインストール設定を進めてください。

Copyright (c) 2017-2025 Sparx Systems Japan



この画面以降には設定が必要な点はありません。インストールを完了させてください。環境によっては以下のような画面が表示されるので、通信を許可するように設定してください。



Copyright (c) 2017-2025 Sparx Systems Japan

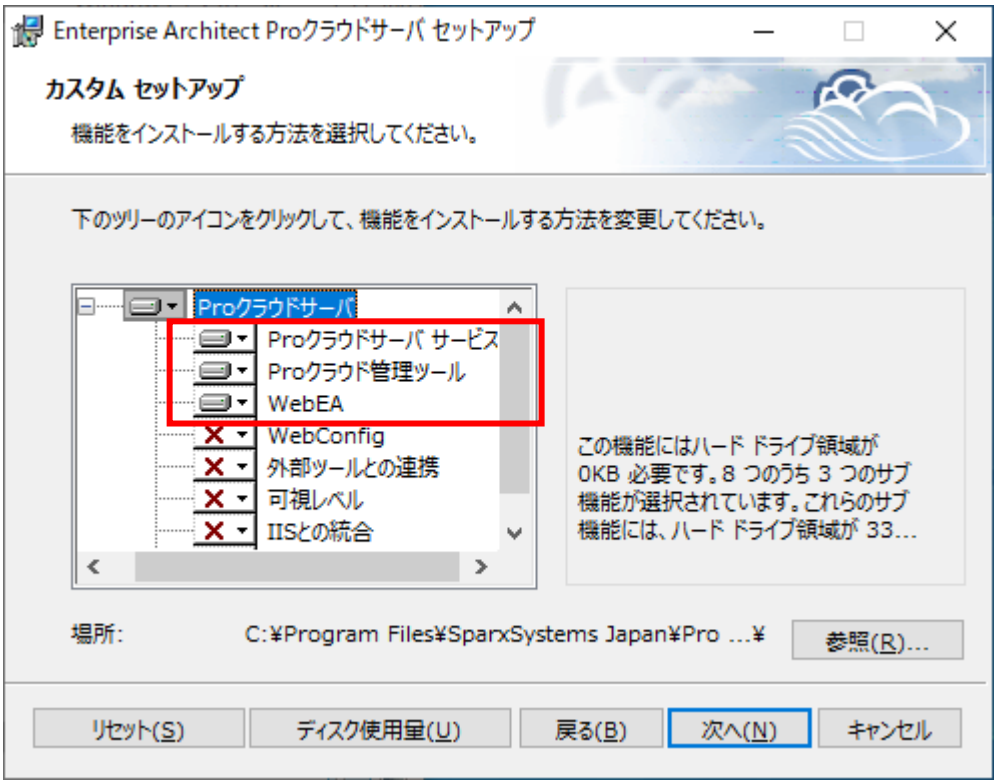
インストールが完了すると、XAMPP のコントロールパネルを起動するかの選択肢が表示されますので、コントロールパネルを起動するように選択してください。インストールが完了し、コントロールパネルが表示されます。この段階では何もせず、ウィンドウを最小化しそのまま残しておいてください。

Copyright (c) 2017-2025 Sparx Systems Japan

4.2 Proクラウドサーバ

次に、Pro クラウドサーバをインストールします。ダウンロードした Pro クラウドサーバのインストーラを実行してください。

使用許諾画面が表示されますので、内容に同意できる場合には次に進んで下さい。製品の説明の後、次の画像のような、機能の選択画面が表示されます。



Pro クラウドサーバのみを利用する場合には、「Pro クラウドサーバ サービス」および「Pro クラウド管理ツール」の 2 つをインストールしてください。

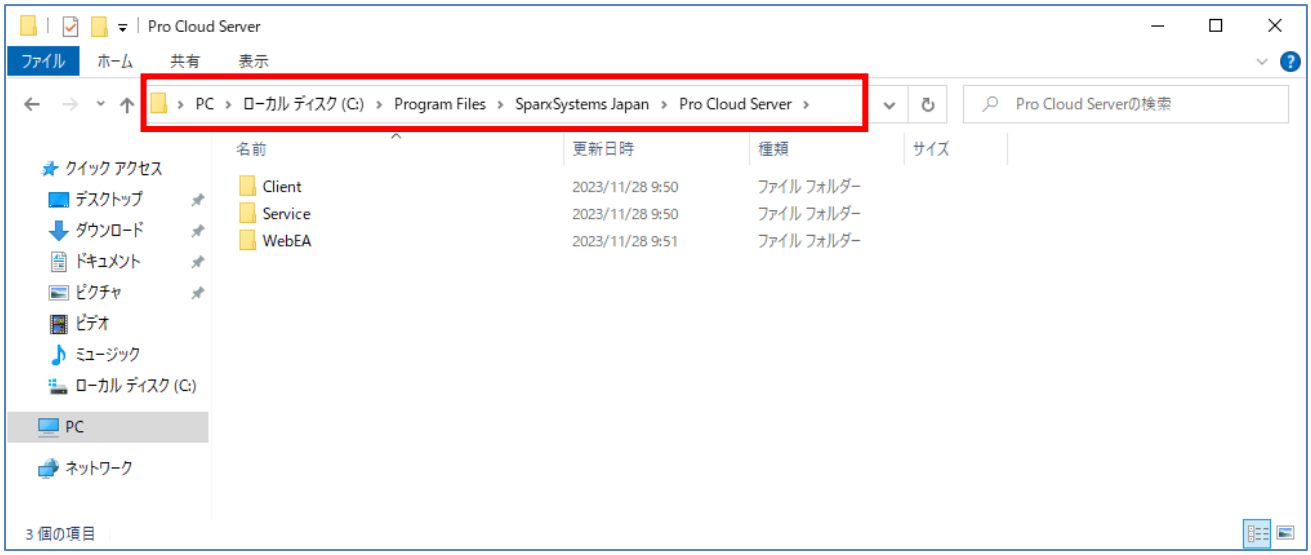
WebEA

WebEA を利用する場合には、この画面では、上の画像のように「Pro クラウドサーバ サービス」および「Pro クラウド管理ツール」に加えて、「WebEA」をインストールするように設定して下さい。

4.3 WebEAファイルの移動 WebEA

インストールが完了すると、インストールしたディレクトリにファイルが作成されます。次の画像は、Pro クラウドサーバをインストールした場合の例です。

Copyright (c) 2017-2025 Sparx Systems Japan



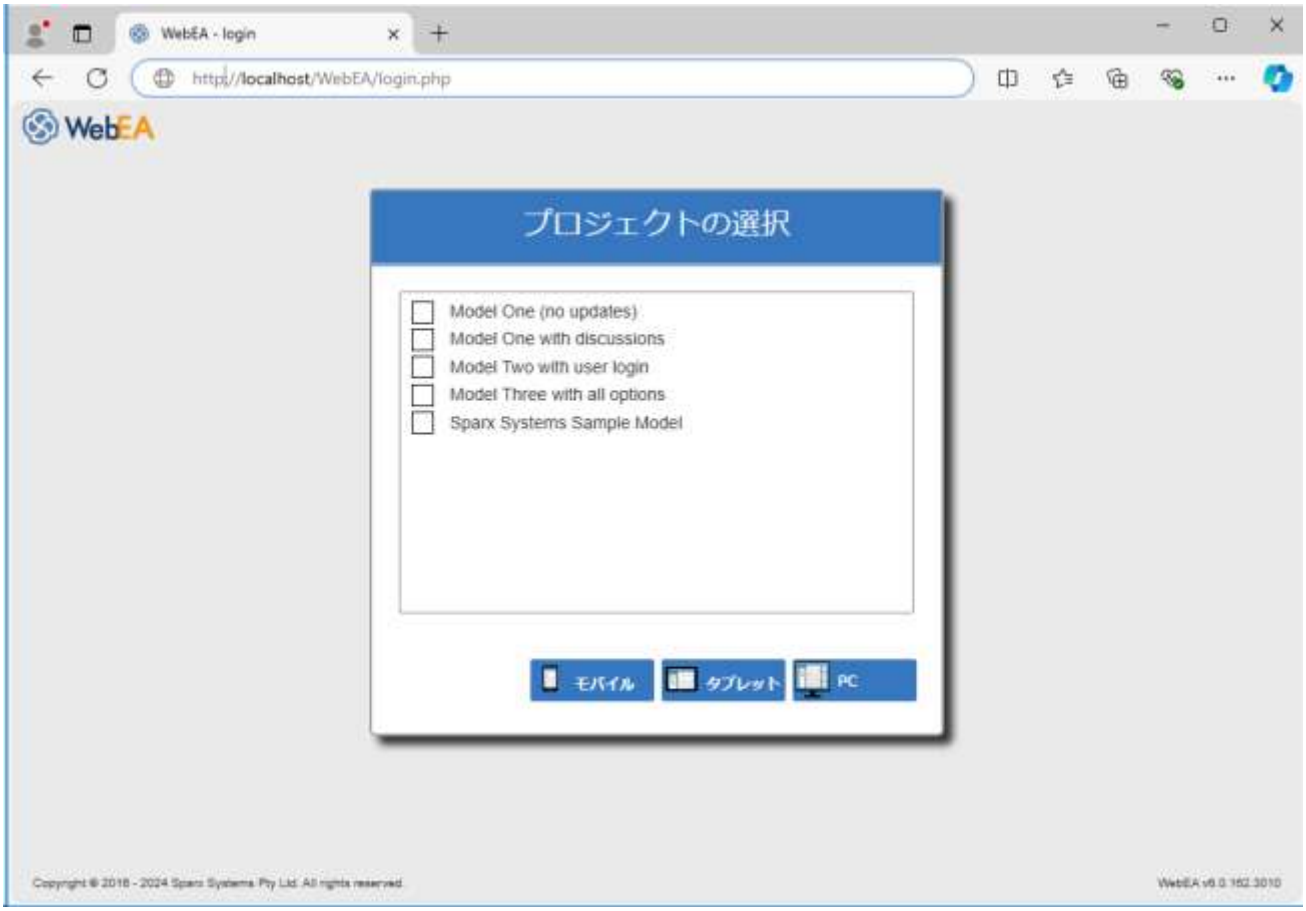
この中の「WebEA」のフォルダを右クリックし、「コピー」を選択してください。そして、Apache のファイルを格納する位置である C:¥xampp¥htdocs のフォルダを開いて、背景で右クリックして「貼り付け」を選択してフォルダをコピーしてください。

これで、WebEA のファイルの配置が完了です。

ここまでの設定が正しくできたかどうかを確認します。先ほど保留にしておいた XAMPP のコントロールパネルから、Apache の「Start」ボタンを押してサーバを起動してください。

次に、作業をしているサーバのマシンで Web ブラウザを起動し、「http://localhost/WebEA/」を参照します。次の画面のように、WebEA のスタート画面が表示されれば、ここまでの設定は正しく完了しています。

Copyright (c) 2017-2025 Sparx Systems Japan



5　初期設定

5.1　プロジェクトの準備

次に、Pro クラウドサーバ(および WebEA)で利用するプロジェクトを準備します。とりあえず試したい場合には、プロジェクトの準備は不要です。中身のあるプロジェクトで試したい場合に、Enterprise Architect のインストールディレクトリにあるサンプルファイル「EAExample」を利用することもできます。

Pro クラウドサーバでは、プロジェクトの情報を保存する保存先として、以下のいずれかの形式が利用できます。

- FEAP 形式・QEA 形式のプロジェクトファイル（利用可能な環境は、3 節をご確認ください。）
- MySQL などの DBMS（Enterprise Architect コーポレート版以上のエディションで利用できます。）

FEAP 形式よりも QEA 形式の方が性能面で優れますので、プロジェクトファイルを利用する場合には、特別な理由がない限りは QEA 形式の利用を推奨します。

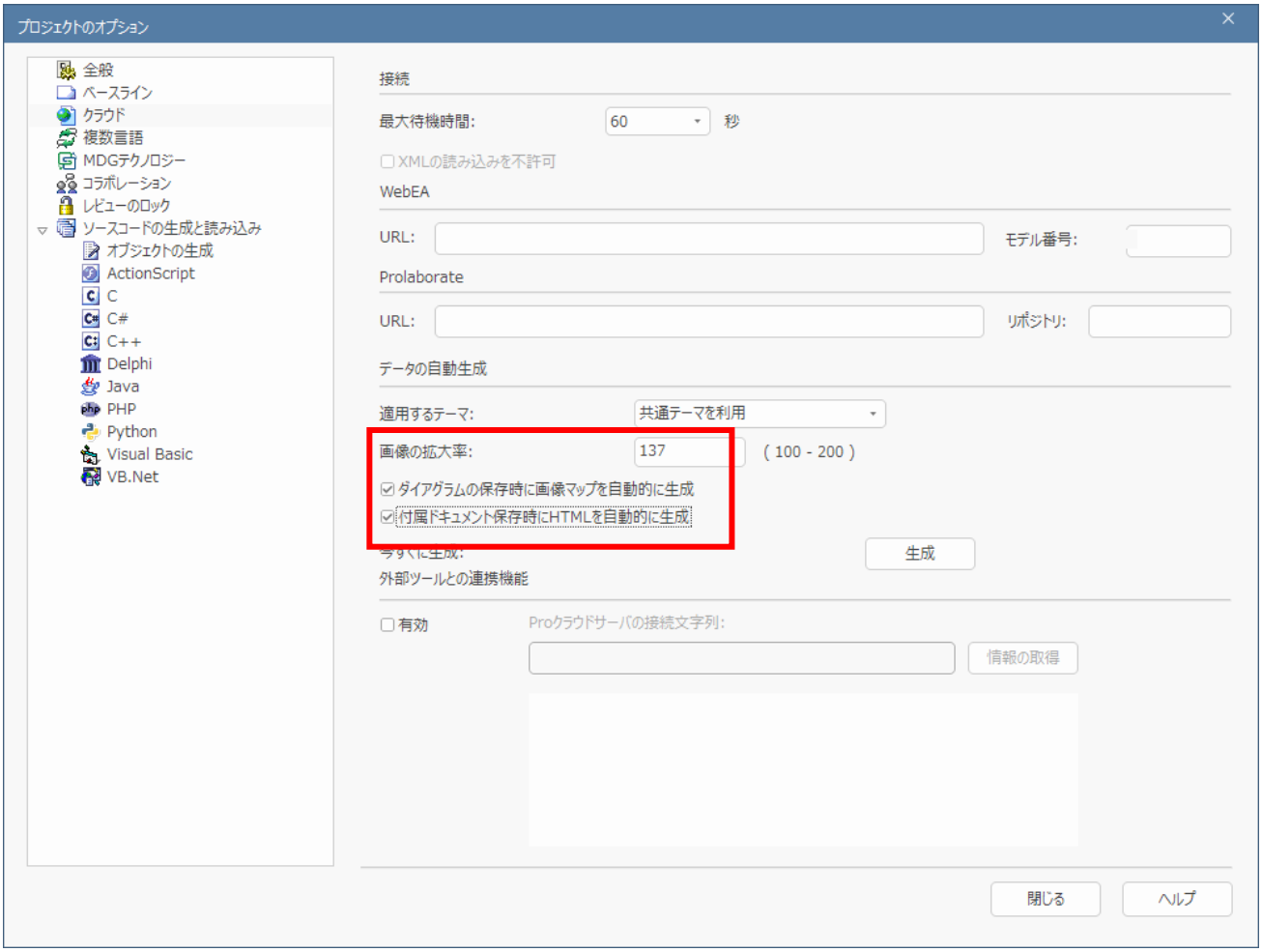
Copyright (c) 2017-2025 Sparx Systems Japan

EAPX ファイルは利用できませんので、プロジェクトの内容を QEA 形式に変更する必要があります。詳細はヘルプをご覧ください。

WebEA

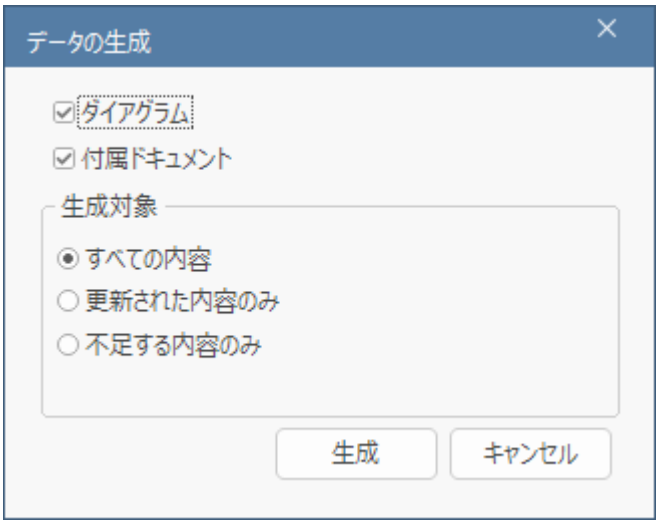
WebEA で利用する場合には追加の設定が必要です。Enterprise Architect で利用するプロジェクトを開いてください。「ホーム」リボン内の「オプション」パネルにある「プロジェクト」ボタンを押し、プロジェクトのオプション画面を開いてください。

「クラウド」グループを選択すると、画面の右下にある「データの自動生成」の項目として 2 つのチェックボックスがありますので、両方にチェックを入れ、さらに「生成」ボタンを押してください。
(その上の「画像の拡大率」を「100」に変更すると、生成する画像が少し小さくなります、)



データの生成画面が表示されますので、既定の設定(下の画像)のまま「生成」ボタンを押します。プロジェクトの内容が多い場合には、処理にしばらく時間がかかります。WebEA で利用するための内部データを生成しています。

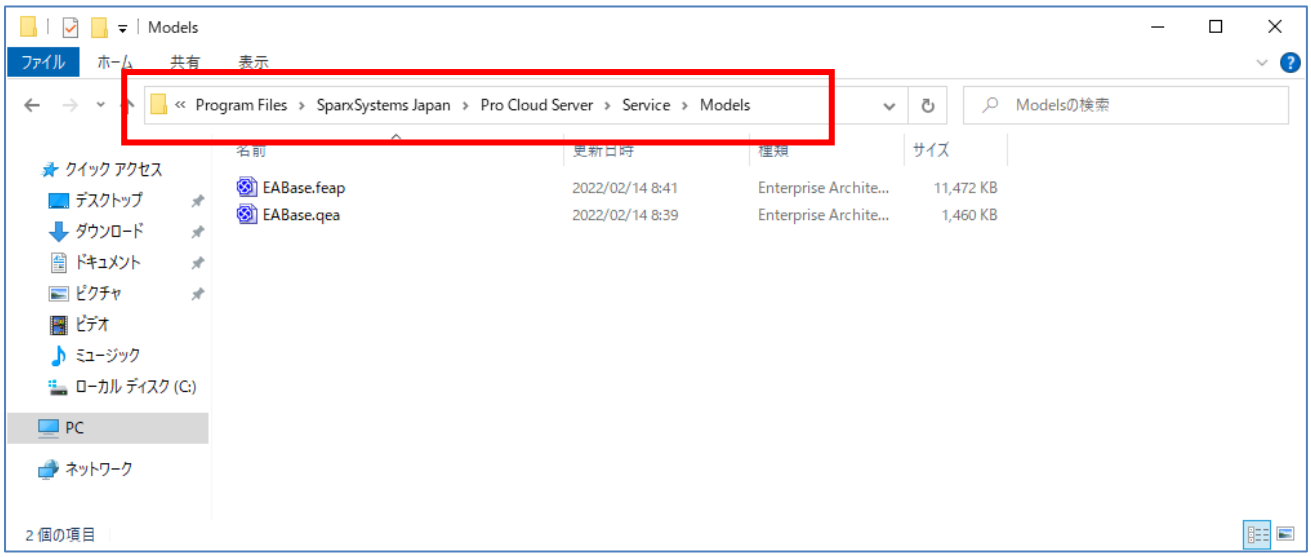
Copyright (c) 2017-2025 Sparx Systems Japan



以上で WebEA のための追加設定が完了となります。

5.2 Proクラウドサーバの設定

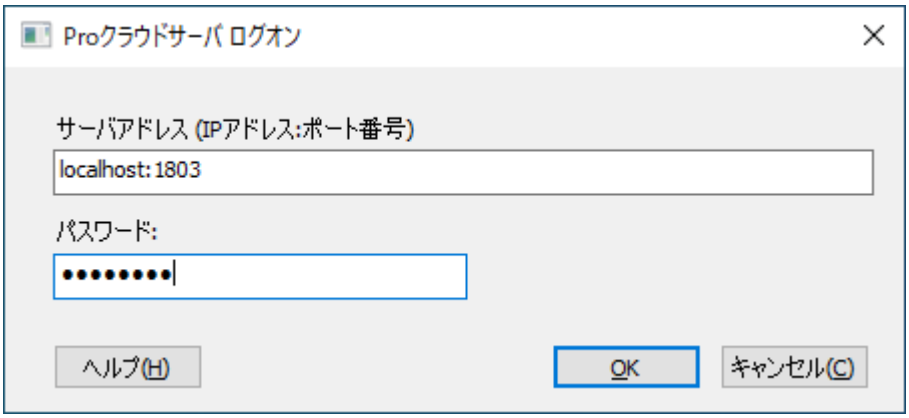
設定が完了したプロジェクトファイルを、Pro クラウドサーバをインストールしたディレクトリにある Models フォルダ内に配置します。既存のファイルを利用しない場合(空のプロジェクトを利用する場合)には、この作業は不要です。
(既定値のインストール位置は、C:¥Program Files¥SparxSystems Japan¥Pro Cloud Server¥Service¥Models です。)



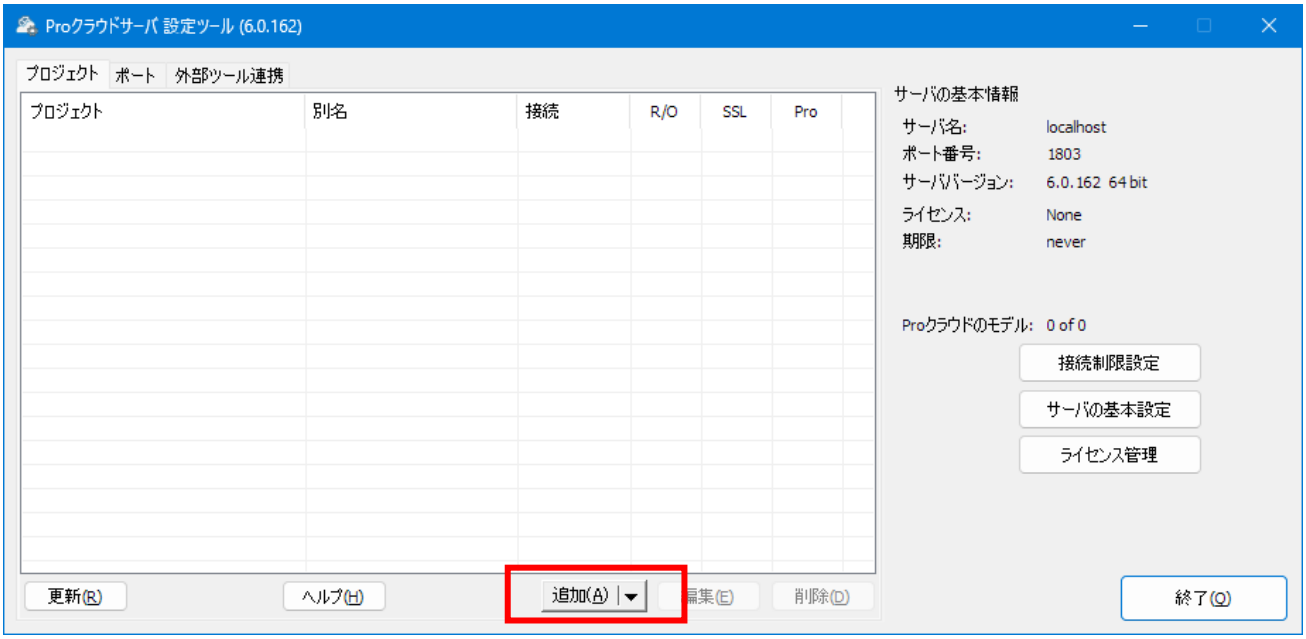
次に、Pro クラウドサーバの設定を行います。Windows のスタートメニューの「Enterprise Architect」グループから「Pro クラウドサーバ 設定ツール」を起動します。下の「Pro クラウドサーバ ログオン」画面が表示されますので、「サーバアドレス」欄に「localhost:1803」を入力し、「パスワード」欄を入力

Copyright (c) 2017-2025 Sparx Systems Japan

して OK ボタンを押してください。(1803 番ポートは管理機能のための通信ポートです。設定ファイルで変更することが可能です。既定のパスワードは、「ヘルプ」ボタンを押すと確認できます。)



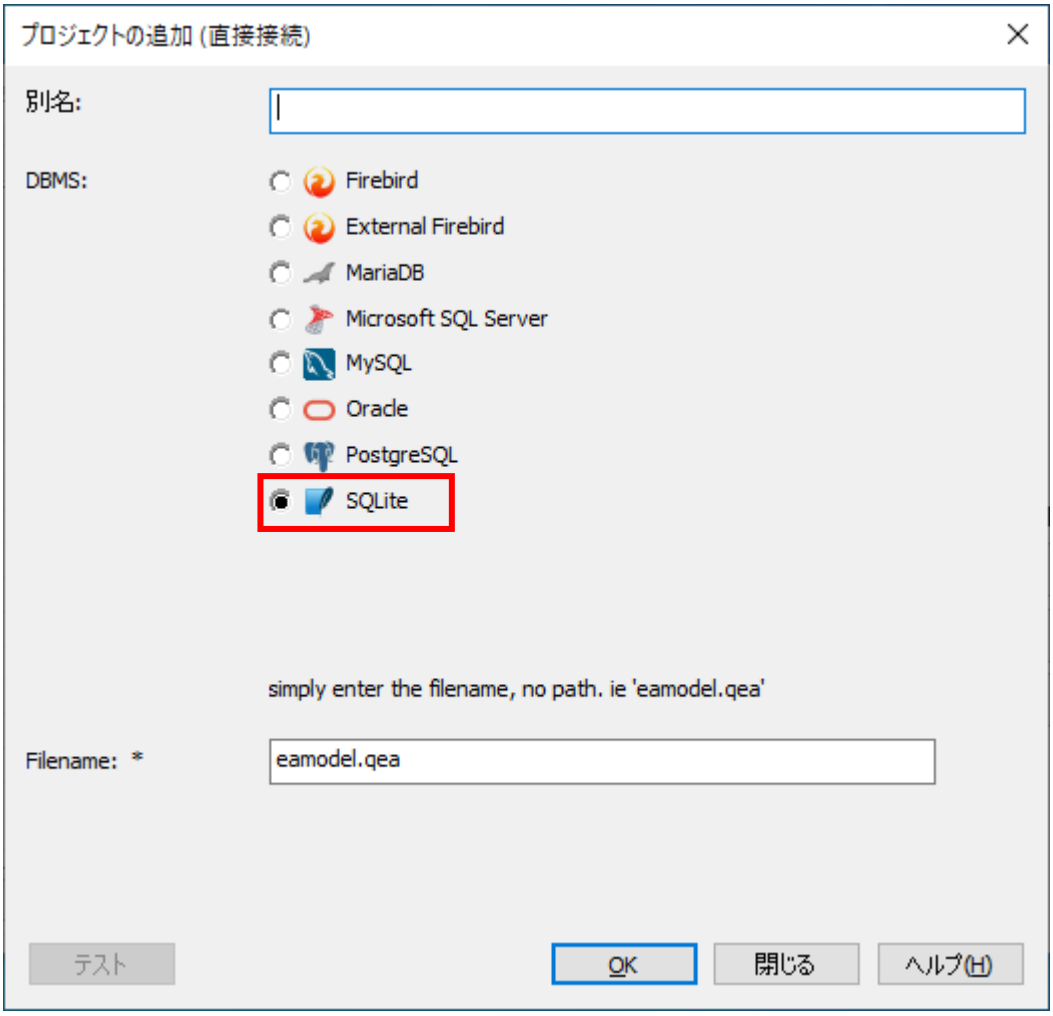
OK ボタンを押すと「Pro クラウドサーバ 設定ツール」画面が開きますので、右下の「追加」ボタンを押します。



「プロジェクトの追加」画面が表示されます。「DBMS」は、QEA ファイルを利用する場合には「SQLite」を選択してください。「Filename」欄が表示されますので、ファイル名を入力してください。入力された名前のファイルが Models フォルダにあるものとして扱われます。「別名」の設定は不要です。

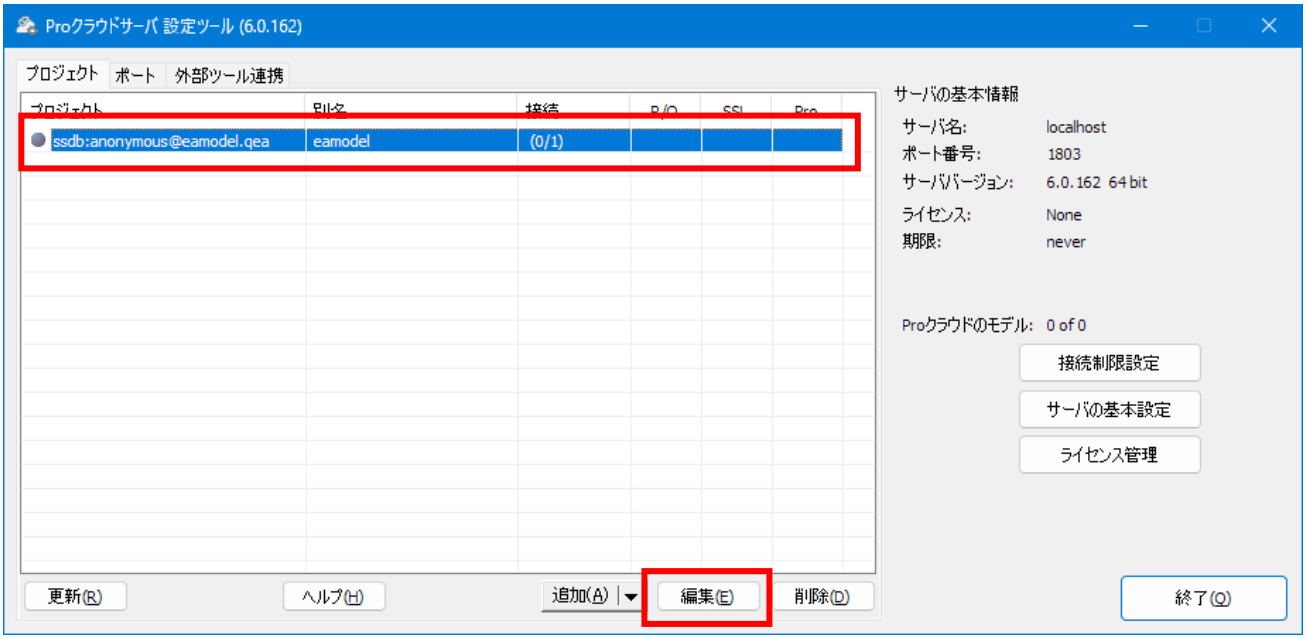
既存のファイルを利用せず、新規のファイルを利用する場合には、拡張子を含む適当なファイル名を入力してください。指定されたファイルが存在しない場合には、自動的にその名前のファイルを Models フォルダに作成します。

Copyright (c) 2017-2025 Sparx Systems Japan

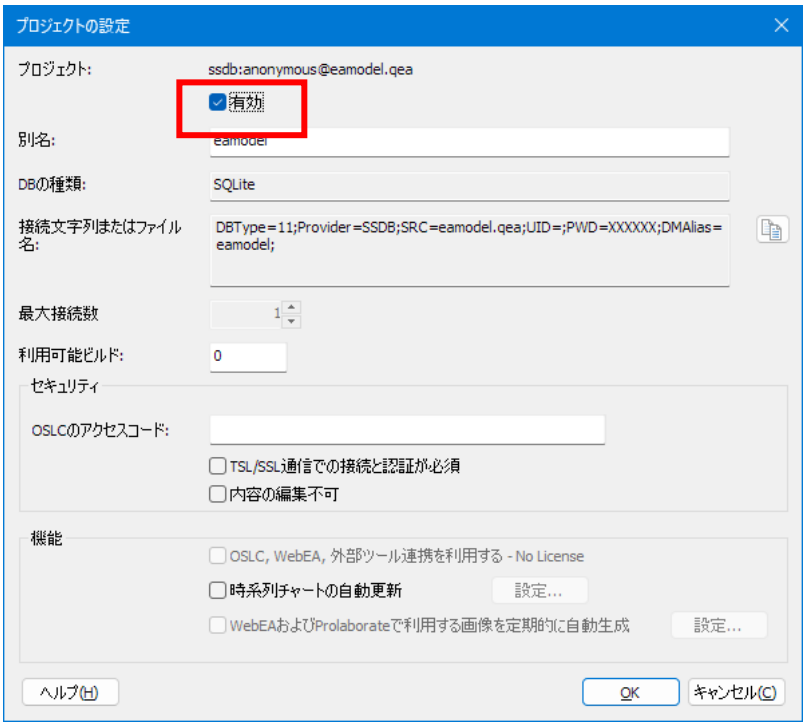


OK ボタンを押すと Pro クラウドサーバ 設定ツール」画面に戻ります。新規追加した項目は無効になっていますので、有効に設定する必要があります。追加した項目を一覧で選択して「編集」ボタンを押してください。

Copyright (c) 2017-2025 Sparx Systems Japan



「プロジェクトの設定」画面が表示されますので、「有効」のチェックボックスにチェックを入れ、外部からの通信を受け付けるように設定します。これで準備は完了です。



Enterprise Architect で作成した内容を Web ブラウザから参照するためには、さらに次の WebEA の設定を行う必要があります。

Copyright (c) 2017-2025 Sparx Systems Japan

5.3 WebEAの設定 WebEA

WebEA を利用する場合には、まずライセンスを適用する必要があります。ライセンスの適用方法につきましては、ヘルプをご覧ください。

https://www.sparxsystems.jp/help/17.0/cloud_license_screen.html

その上で、5.2 節で説明した「プロジェクトの設定」画面で「OSLC, WebEA, 外部ツール連携を利用する」の項目にチェックを入れる必要があります。

WebEA の設定は、「webea_config.ini」ファイルを編集して行います。このファイルは、4.3 節でコピーしたファイルに含まれています。具体的には、C:¥xampp¥htdocs¥WebEA¥includes に存在します。

このファイルをメモ帳などのテキストエディタで開いて編集します。非常に多くの設定が可能ですが、今回は最低限の機能で、WebEA を利用できるようにするための設定とします。このファイルにはサンプルとしての設定が含まれますのでその内容を削除し、以下の内容のみとしてください。

```
---ここから
[model_list]
model1 = "Test"

[model1：settings]
sscs_protocol = "http"
sscs_server = "localhost"
sscs_port = "1804"
sscs_db_alias = "eamodel"
auth_code = ""
---ここまで
```

なお、「sscs_db_alias」の設定は、5.2 節の Pro クラウドサーバの設定で指定したファイル名の拡張子を除いた文字列になります。設定ファイルの内容に日本語が含まれる場合には、設定ファイルを UTF-8 で保存してください。

以上で、利用するための全ての準備が完了です。

Copyright (c) 2017-2025 Sparx Systems Japan

6 利用

6.1 Enterprise ArchitectからProクラウドサーバに接続する

Pro クラウドサーバに設定した内容は、Enterprise Architect から参照・編集することができます。Enterprise Architect を起動すると表示される「スタートページ」タブの「クラウドサーバに接続する」をクリックしてください。

「クラウドサーバに接続」画面が表示されますので、「サーバ」欄に「localhost」・「ポート」欄に「1804」を、「プロジェクト名」は Pro クラウドサーバの設定ツールの一覧に表示されている「別名」(プロジェクトファイル名の、拡張子を除いたものと同じです)を指定します。「名前」欄は「最近利用したプロジェクト」一覧に表示される内容となりますので、プロジェクトを判別しやすい名前を入力してください。

Copyright (c) 2017-2025 Sparx Systems Japan

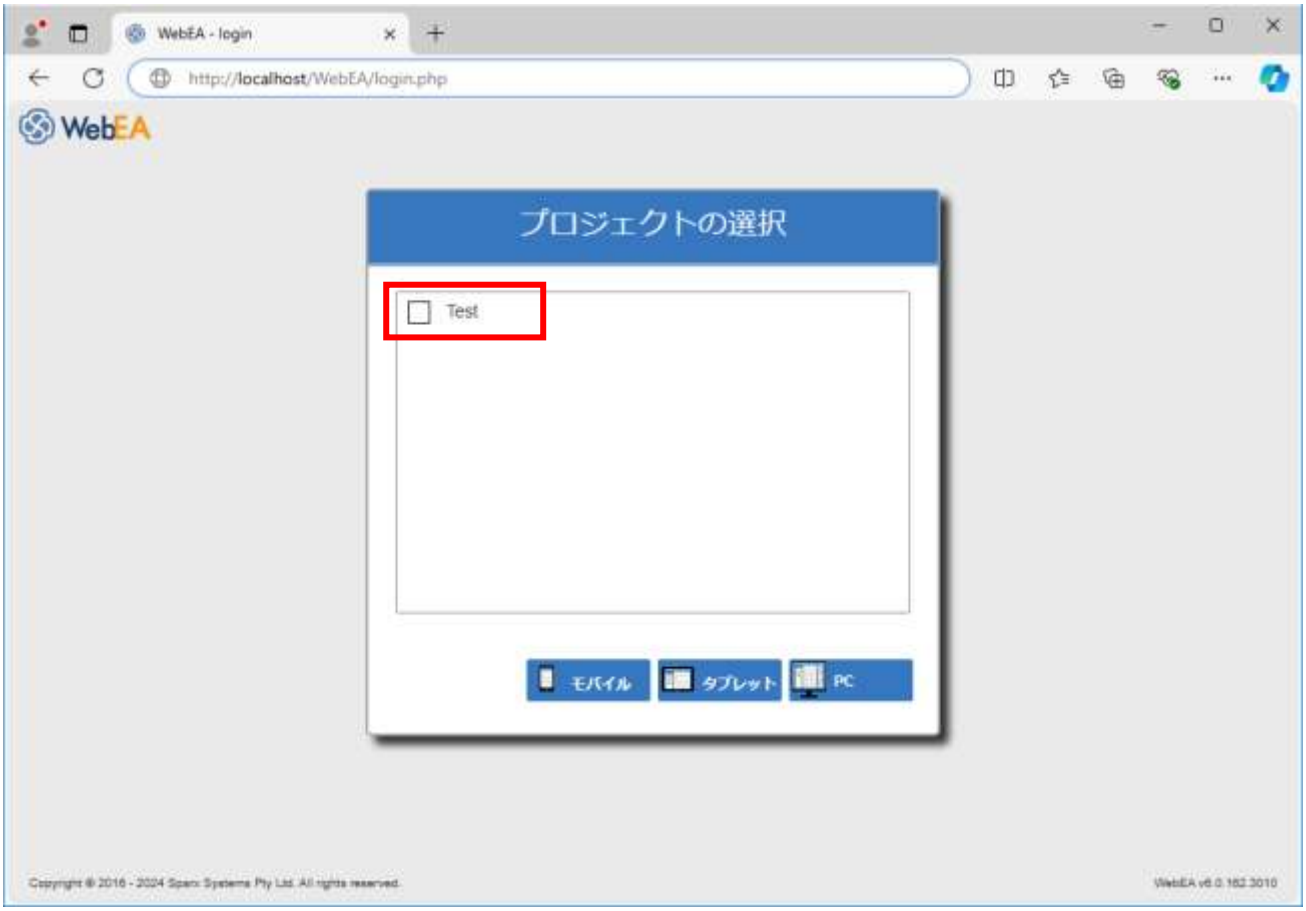
OK ボタンを押すと、Pro クラウドサーバが管理するプロジェクトを開き、内容を参照・編集することができます。Enterprise Architect からの操作は、ローカルマシンなどにあるプロジェクトファイルを利用する場合や、MySQL などの DBMS にあるプロジェクトを利用する場合と同じです。

なお、Pro クラウドサーバに対応してないアドインが有効になっていると、起動時や利用中にアドインのエラーが表示される場合があります。Pro クラウドサーバを利用中に何らかのエラーが表示される場合には、「アドイン・拡張」リボン内の「アドイン」パネルにある「管理」ボタンを押し、そのアドインを無効にしてください。
(スパークスシステムズ ジャパンが開発したアドインの場合には、サポートにご連絡いただければ、問題を調査します。)

6.2 WebブラウザからWebEAに接続する WebEA

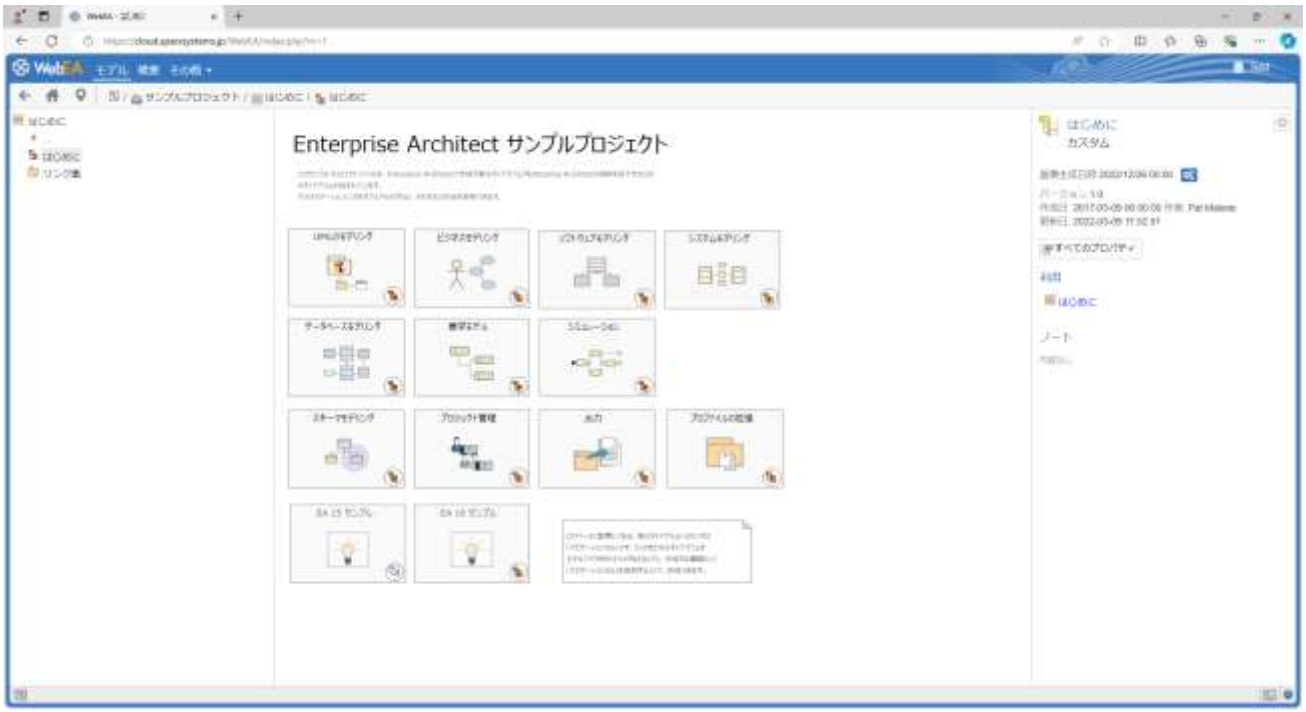
次に、Web ブラウザからプロジェクトの内容を参照します。作業をしているサーバのマシンで Web ブラウザを起動し、http://localhost/WebEA/を参照します。4.3 節でも同様の確認を行いましたが、今回は設定ファイルの内容が反映され、「プロジェクトの選択」の内容が変わります。

Copyright (c) 2017-2025 Sparx Systems Japan



プロジェクトの選択欄に表示されている項目「Test」の横のボックスをクリックして選択し、「PC>」ボタン(あるいは、モバイル，タブレットボタン)を押してください。選択したボタンに応じた環境を想定した画面構成でプロジェクトの内容を表示します。

Enterprise Architect のサンプルプロジェクトを利用している場合の例は次の画像になります。



ダイアグラム内のリンクをクリックして移動できます。ダイアグラム内の要素をクリックすると、その要素のプロパティが画面右側のミニプロパティ領域に表示されます。
(スマートフォンでの利用など、画面の横幅が狭い場合にはミニプロパティ領域は表示されず、プロパティ画面に遷移します。)

今回の設定では利用できませんが、要素に対してコメントを追加できる掲示板のような機能(ディスカッション機能・レビュー機能)や、新規要素の追加・要素のノートなど一部のプロパティの編集も可能です。

また、WebEA はスマートフォンなどの Web ブラウザにも対応するよう、画面サイズによって表示が変わるようになっています。

6.3 Enterprise Architectでの変更をWebブラウザで確認する WebEA

最後に、Enterprise Architect で編集した内容を Web ブラウザから確認する流れを紹介します。Pro クラウドサーバと WebEA を組み合わせることで、Enterprise Architect で編集した内容が自動的・即時に Pro クラウドサーバで確認できます。

6.1 節および 6.2 節の方法で、Enterprise Architect と Web ブラウザの両方で同じプロジェクトに接続します。その上で、Enterprise Architect から編集可能なダイアグラムを開き、同じダイアグラムを Web ブラウザで開いてください。

Copyright (c) 2017-2025 Sparx Systems Japan

そして、例えば要素を１つダイアグラムに追加して下さい。ダイアグラムに追加してから保存(Ctrl+S)を実行してダイアグラムの変更内容を保存すると、その変更内容を Web ブラウザからも確認できます。ダイアグラムの内容を編集して保存後、Web ブラウザの表示内容を更新してください。その変更を即時に確認できます。この際に、Enterprise Architect から内容を変更後、設計者が WebEA で表示される内容を更新するための操作を行う必要はありません。

このように、Pro クラウドサーバと WebEA を組み合わせると、Enterprise Architect で編集した最新の内容を WebEA で参照することができるようになります。今回は利用しませんでしたが、要素にコメントを追加する機能(ディスカッション機能やレビュー機能)と組み合わせれば、以下のような流れを実現することができます。

1. 設計者が Enterprise Architect を利用してモデルを編集
2. レビュー者が Web ブラウザを利用してモデルを確認し、必要に応じてコメントを追加
3. 設計者の Enterprise Architect の画面からコメントを確認し、モデルの修正・コメントへの返信

7 その他の便利な使い方

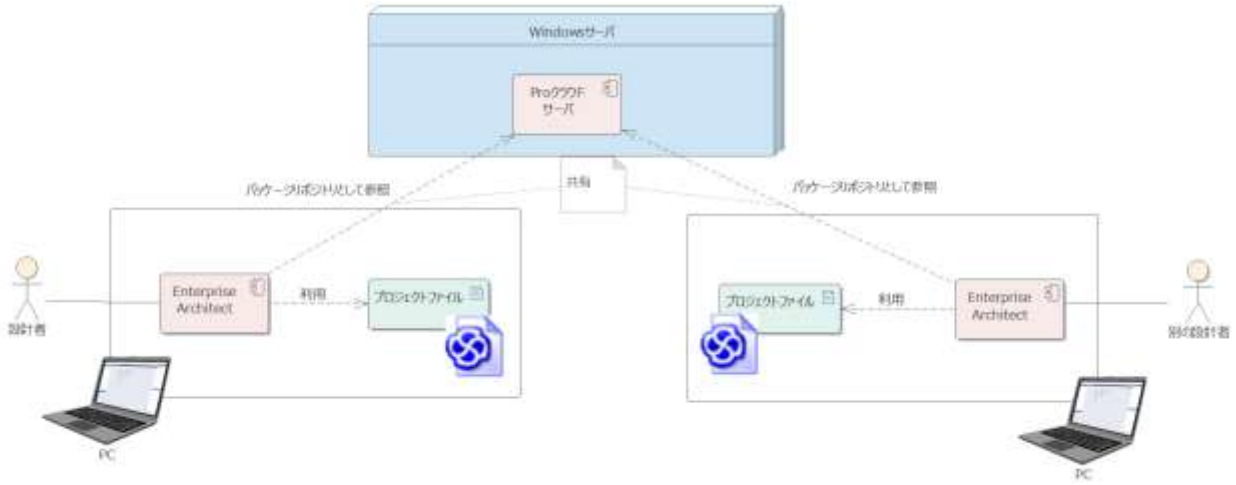
Pro クラウドサーバは、プロジェクトを外部に配置して http/https で参照できるという基本機能のほかに、いくつかの便利な使い方もあります。ここでは、そのうち無料版の Pro クラウドサーバでも利用できる便利な機能を紹介します。

7.1 パッケージリポジトリ

パッケージリポジトリ機能は、プロジェクト内のパッケージを複数人で共有する場合に便利な機能です。パッケージの保存先は Pro クラウドサーバに限られるため、利用には Pro クラウドサーバの構築が必要です。パッケージリポジトリの機能はコーポレート版以上のエディションで利用できます。

設計に利用するプロジェクトと、パッケージリポジトリとして活用する Pro クラウドサーバ上のプロジェクトは同一である必要はありません。例えば以下の構成のように、別々のプロジェクトを利用している人が、Pro クラウドサーバを通して共通ライブラリなどの共有パッケージを登録・取得することが可能です。

Copyright (c) 2017-2025 Sparx Systems Japan



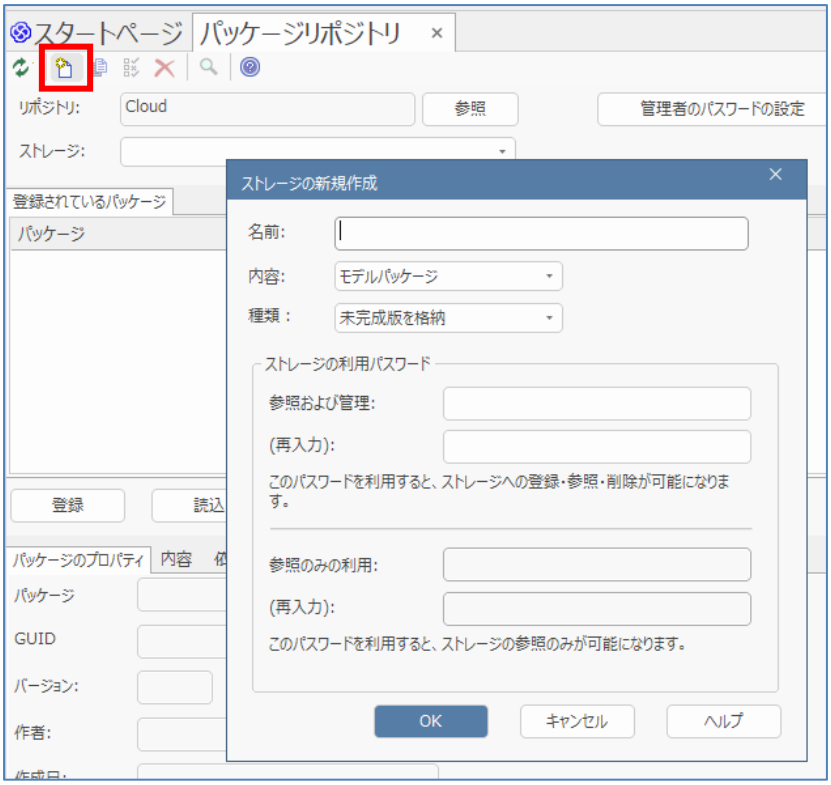
パッケージリポジトリは、プロジェクト内のパッケージを登録(あるいは更新)したり、登録されているパッケージを取得し利用したりできます。共通部品など複数の異なるプロジェクトで利用される内容を登録しておき、必要に応じて取得して利用することができます。また、パスワードで利用できる人を制限することもできます。

パッケージリポジトリを利用するには、「生成・入出力」リボン内の「モデルの入出力」パネルにある「パッケージリポジトリ」ボタンを押します。

「パッケージリポジトリ」タブが開きます。最初は利用する「リポジトリ」を Pro クラウドサーバ上のプロジェクトに作成する必要があります。「リポジトリ」欄の右端にある「選択」ボタンを押し、Pro クラウドサーバに接続してください。このときに、現在開いているプロジェクトと異なる Pro クラウドサーバを指定できます。

最初に接続した場合には、「ストレージ」が存在しないというメッセージが表示されます。Pro クラウドサーバ上のプロジェクトには 1 つの「リポジトリ」を作成することができ、「リポジトリ」内には複数の「ストレージ」を作成することができます。ツールバーにあるストレージの新規作成ボタンを押し、ストレージの新規作成画面を表示させます。

Copyright (c) 2017-2025 Sparx Systems Japan



とりあえず試す場合には、パスワードの入力は不要です。パスワードを入力しない場合には、すべての利用者がそのストレージに対してパッケージの登録および取得が可能になります。「名前」を入力し、種類は「未完成版を格納」として OK ボタンを押してストレージを作成してください。

あとは、「登録」ボタンを押して利用しているプロジェクト内のパッケージをパッケージリポジトリに追加できます。また、すでに登録されているパッケージを選択して「読込」を実行して取り込むこともできます。

登録するパッケージにバージョンをつけて複数の情報を管理したり、パッケージ間の依存関係を自動的に判別したりする機能も備わっています。詳細はヘルプをご覧ください。

https://www.sparxsystems.jp/help/16.0/reuseable_asset_service.html

8　トラブルシューティング

Pro クラウドサーバをインストール後、Enterprise Architect からうまく利用できない場合に確認すべき方法は以下の通りです。

1. Windows 管理ツールの「サービス」で、Pro クラウドサーバのサービスである「Sparx Systems

Copyright (c) 2017-2025 Sparx Systems Japan

Professional Cloud」が「実行中」であることを確認してください。

2. 設定ファイルを適切に設定し、ログファイルが出力されていることを確認してください。また、ログファイル内にエラーが出力されていないかどうか、確認してください。
3. Web ブラウザを起動し、アドレスに「http://localhost:1804」を入力し、Pro クラウドサーバの画面が表示されるかどうかを確認してください。
   (ポート番号 1804 は、設定ファイルで変更している場合には異なる値になります。)
   この段階で正しく表示されない場合には Pro クラウドサーバが正しく起動していないか、設定ファイルの内容に誤りがあります。

4. Pro クラウドサーバ 設定ツールを起動し、プロジェクトを 1 つ以上定義していることを確認してください。
5. Pro クラウドサーバが動作するマシンに Enterprise Architect をインストールし、Pro クラウドサーバに接続し定義しているプロジェクトを開くことができるかどうか確認してください。その際の設定は以下のようにします。
   - 「プロトコル」は「http://」
   - 「サーバ」は「localhost」
   - 「ポート」は設定ファイルで指定したポート
     (サンプルの設定ファイルの内容を利用した場合は 1804)

     この段階で開くことができない場合、以下のいずれかが原因です。
   - プロジェクトの設定に誤りがある
   - Enterprise Architect で開く際に、定義したプロジェクトの「別名」を正しく指定していない
     プロジェクトファイルの場合、明示的に別名を指定しない限り、別名はファイル名(拡張子を除く)です。
   - ポートの指定が正しくない

上記の内容まで問題がない場合には、Pro クラウドサーバおよび Enterprise Architect の設定には問題はありません。

Pro クラウドサーバと異なるマシンにインストールした Enterprise Architect から開くことができない場合は、ファイアウォールや DNS の設定など、Enterprise Architect に依存しないネットワークの設定や制限が原因です。SSL(https)を利用する場合には、証明書などの内容が原因の場合もあります。これらの対応につきましては、標準サポートの範囲外となります。

Copyright (c) 2017-2025 Sparx Systems Japan